

式 辞

ただいま入学を許可いたしました国際会計科33名、商業科240名の新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。春爛漫の今日の良き日、入学生の保護者の皆様のご臨席のもと、ここに明石市立明石商業高等学校第71回入学式を挙行できますことは、私ども教職員のこの上ない喜びであります。心より感謝申し上げます。

教職員を代表し、お祝いの言葉を贈ります。

本校は、昭和28年に戦後、経済の復興と産業教育の振興という日本再建の国策の下、明石市民の熱い思いで設立された、市内唯一の市立高校です。ここ明石市は、5年前の平成30年4月、姫路市、西宮市、尼崎市に次ぐ本県4例目となる中核市に移行し、人口減少が社会問題となっている中、人口が増加し続ける全国的にも数少ない地域であり、ますます活気づいています。そんな中、本校は、今年度11月に「70周年記念式典」を控える、伝統校であり、現在も実業界の中核で活躍し、その優れた力量を評価されている卒業生を多数輩出しています。

皆さんの右前に示されているように本校の校訓は、自立、親和、感謝です。

「自立」は、不屈の精神を基盤として、自らを鍛えるような生活習慣を身につけ、高校生として自主的、創造的に活動することです。

「親和」とは、礼儀を尊び、道徳心を培いながら、親しみと協調を持って生きることです。

「感謝」とは、人を敬う精神を培い、誠意と思いやりを持つ、ということです。

この校訓は、建学の精神であり、時代は変わっても、皆さんを導く羅針盤となるものですから、しっかりと心に刻んでください。

さて、3年間続いたコロナ禍でしたが、我々はようやく出口に立ちました。マスク着用が、原則「個人の判断」となり、すでに政府は、新型コロナの感染症法上の位置づけを、2類相当から5類へと5月8日に移行することを決めています。5類、つまり「季節性インフルエンザ」と同じ分類になります。

行事等で制約が多かった学校生活も、コロナ前の状況に戻しながら、動けなかった3年間の中で考えた、「必要であったこと」、「必要がなかったこと」、「変えていくべきこと」を整理しながら、新しい時代が始まるという思いで取り組んでいきます。

では、最後に、入学式の式辞として1つだけ、話をさせていただきます。

イギリスの生物学者チャールズ・ダーウィンが残したことばで「生き残るのは最も強い者や最も賢い者ではなく、変化できるものである」ということばがあります。

逆に「変化よりも恐ろしい唯一のものがある」と言われるのですが、皆さんは、何かわかるでしょうか？そう、それは「変化しないことだ」といわれています。

変化するということは、それまでと違う状態になるということで、それを前向きに捉えれば「成長する」と言えます。少なくとも「成長」したならば「変化」したはずですが、ただ、人間は基本的に保守的で、変化を望みません。それは、今の状態を維持して変化しないでいる方が楽だからです。新しいことに挑戦したり、今のやり方を捨てたりすることを、自主的に出来るようになってください。変化のきっかけは外からの変化に順応する形であっても構わないと思います。ここで大事になるのが、新たな条件や環境に適応できる能力である「適応力」です。この新しい条件や環境に適応するというのも、ひとつの変化です。本校も、創立70年を越え、令和6年度に向けて、学科再編など学校が発展成長していくために、また本校の存在意義を高めるために、歩みを止めず、変わっていきます。社会の大きな流れを注視し、外部環境の変化を感じ取り、潮目を読みながら判断し、今後も変化し続け、進んでいきます。皆さんにも、この3年間、変化し続ける毎日を送ってもらえることを期待します。最後に、保護者の皆様にお願いです。学校教育においては、学校・家庭・地域の連携が不可欠です。特にご家庭の協力なしには教育の成果は期待できません。本校教職員一同、精一杯努力してまいる所存でございますので、保護者の皆様におかれましても、学校への力強いご支援・ご協力をお願い申し上げます。式辞とします。本日は、ご入学、誠にありがとうございます。